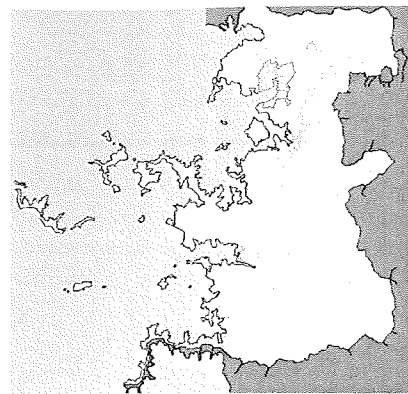
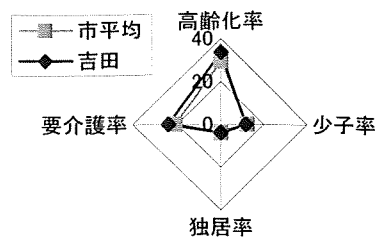


吉田地区

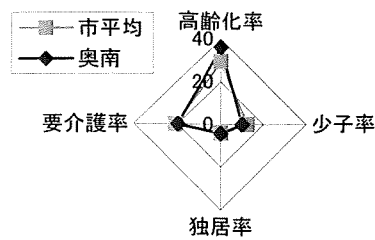
人口	5,532 人
世帯数	2,247 世帯
高齢化率	33.7 %
少子率	11.6 %
独居率	3.9 %
要介護率	23.9 %



吉田とは	立間川に沿って集落があり、国道が街の南北に走り、宇和島市街地へは20分程度。立間川の両岸に沿って建ち並ぶ陣屋町風景が色濃く残っている。		
歴史	明治23年、市制・町村制にともない、吉田藩の大半が合併して吉田町を形成。昭和13年、立間尻村が合併。昭和30年、吉田町、立間村、喜佐方村、奥南村及び玉津村が合併、さらに高光村の一部(知永)を編入して新吉田町となる。平成17年、宇和島市と合併。		
地域組織	自治会数 35 民生委員数 19 (主任児童委員含む) 地域組織 吉田地区社協 いきいきサロン(高齢者9、子育て1、障害者1) 吉田ボランティアの会 点訳ボランティアつわぶき オープンスペースキャッチ 精神保健福祉グループ「あなたといっしょ」 金澤さん(前国安の郷館長)	自主防災組織 24	
公共施設・生活施設	小学校 1 保育所 2 公民館・集会所 23 野球場 1 介護施設 8 薬局 5 スーパー 3 簡野道明記念吉田図書館 吉田三間商工会 観光 (国安の郷、ふれあい運動公園、観光文化センター、桜の小道 ほか)	中学校 1 幼稚園 1 老人憩いの家 学童保育(つぼみっこクラブ、ライライキッズ ほか) 障害者作業所 4 郵便局 1 JAえひめ南吉田支所 金融機関 4	高校 1 吾子苑 公園 10 病院 8 駐在所 1 コンビニ 2
地域活動	地区社協 地区社協だより発行、サロン支援、独居老人お餅配布 など 公民館 夏祭り流し踊り、七草粥 など その他 亥の子、秋祭り、夏祭り、老人運動会		
文化・郷土芸能・人物	文化財 食籠 陣屋跡	御用井戸 八十八体仏	おねり 犬尾城跡
交通機関	最寄り駅は吉田駅。宇和島バスが、56号、南君へ向う海岸沿いを走る。バス路線の無い地区は、昼間コミュニティバスが補完している。		
現状	旧吉田町の中心地であり、生活施設が集中し、生活はしやすい。近年、大型店の進出、後継者不足等により店を閉める所が増えている。国道沿いの町で、交通機関が充実しているが、朝夕は非常に込み事も絶えない。		

奥南地区

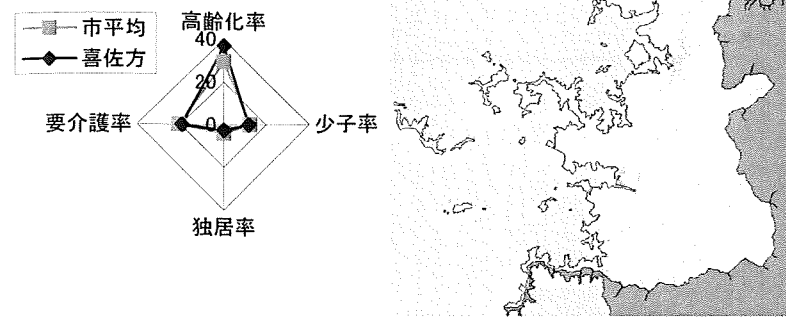
人口	1,457 人
世帯数	502 世帯
高齢化率	36.3 %
少子率	10 %
独居率	4.3 %
要介護率	19.8 %



奥南とは	旧吉田町の西に位置する。漁港を取り囲むように8つの浦に広がる自然豊かな地域。旧吉田町のキャッチフレーズ「山並みに海とみかんが似合うまち」にもっとも相応しく参道から見渡す宇和海が実にすばらしい。		
歴史	明治23年、市制・町村制にともない、奥南村を形成。明治20年頃から始まった養蚕は、気候地味に恵まれ、県下第1級の養蚕村として名を残す。昭和30年、吉田町、立間村、喜佐方村、奥南村及び玉津村が合併、さらに高光村の一部(知永)を編入して新吉田町となる。		
地域組織	自治会数 11 民生委員数 8 (主任児童委員含む) 地域組織 奥南地区社協 いきいきサロン(高齢者3、子育て1)	自主防災組織 7	川崎さん(サロン講師)
公共施設・生活施設	小学校 1 公園 6 郵便局 1	保育園 2 金融 1 商店 2	公民館・集会所 11 漁協 2 理容・美容 2
地域活動	地区社協 サロン支援・推進、福祉団体との意見交換、ボランティア育成 など 公民館 盆踊り、地区大運動会、ミニ門松作り その他 亥の子、秋祭り、夏祭り、住吉友の会		
文化・郷土芸能・人物	人物 小西三郎(国内アルコール製造の先駆者。ダルマ焼酎) 文化財 おねり保存会 延命地藏菩薩 竜王鼻流痕		
交通機関	国道56号線まで車で20分程度。宇和島バスが海岸線に沿って走る。また山間部をコミュニティバスが補完する。		
現状	典型的な少子高齢化の地区。介護予防活動に力を入れており、高齢者を中心に活気を感じる。小規模であるが、コミュニティ活動は活発で、伝統行事の継承・スポーツ活動等に熱心。		

喜佐方地区

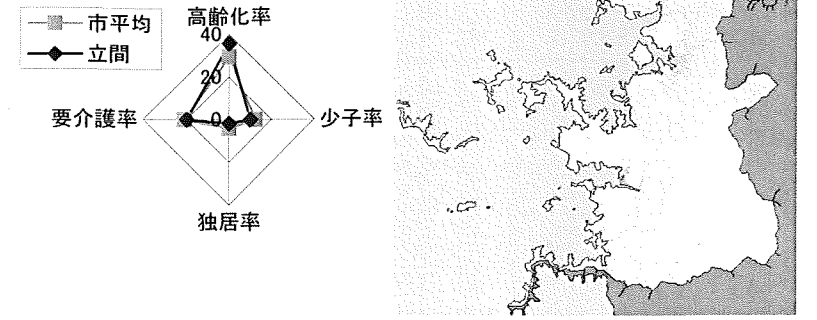
人口	1,491 人
世帯数	499 世帯
高齢化率	37.1 %
少子率	11.7 %
独居率	2.6 %
要介護率	19.3 %



喜佐方とは	旧吉田町のほぼ中央に位置し、西から東に流れる河内川沿いの地。 農業用の灌漑施設として東蓮寺ダムを有する。 旧吉田町で唯一の稲作地。		
歴史	明治23年、市制・町村制にともない、喜佐方村を形成。 昭和30年、吉田町、立間村、喜佐方村、奥南村及び玉津村が合併、さらに高光村の一部(知永)を編入して新吉田町となる。		
地域組織	自治会数 9 地域組織 喜佐方地区社協 いきいきサロン(高齢者6、子育て1)	民生委員数 6 (主任児童委員含む) 自主防災組織 1 婦人会(特に環境活動)	
公共施設・生活施設	小学校 1 公園 5 商店 1	保育園 1 駐在所 1 理容・美容 2	公民館・集会所 11 金融 1 果樹園 4
地域活動	地区社協 フォトリレー、季節の料理、防災講習会、戦争体験者の講座 など 公民館 太陽の広場キャンプ、敬老会、しめなわ作り など その他 芸能祭、亥の子、秋祭り、夏祭り		
文化・郷土芸能・人物	人物 清家吉次郎 吉田病院、吉田高校創設に尽力。 山下亀三郎 吉田高校等の建設、橋、トンネルの土木事業に寄与。 文化財 河内口説		
交通機関	国道56号線まで車で10分程度。 平成15年、宇和島バスが廃線となり、コミュニティバスが走っているのみ。		
現状	高齢化率は非常に高いが、少子率は平均的。 独居率も低く、昔ながらの3世代家族が残る地区であろうか。 地区内の商店はAコープのみで、公共交通機関も無く、不便な地域ではあるが、高齢になっても仕事を持ち、また同居家族等で助け合っているのではないかと。 住民の集う機会は多く、地域の連帯は保たれている。		

立間地区

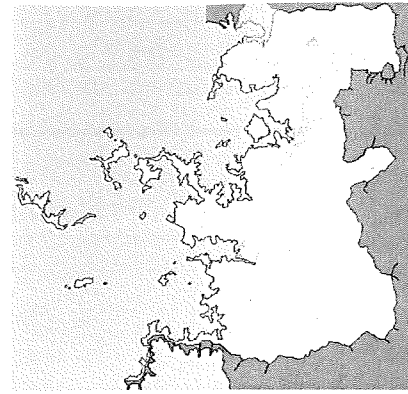
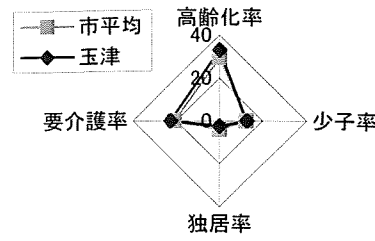
人口	1,628 人
世帯数	563 世帯
高齢化率	35.7 %
少子率	10 %
独居率	1.8 %
要介護率	19.8 %



立間とは	宇和島市の最北端。高森山や法花津峠から複雑な山並みが落ち込む急傾斜地からその裾野に広がる平地部。 日本一を誇る愛媛みかんの発祥地として有名。 地域ぐるみの安全教育、健康教育などに熱心で、平成11年には安全功労者内閣総理大臣賞を受賞。		
歴史	明治23年、市制・町村制にともない、立間村を形成。 その後、耕地整理を実行し、田地が次々に宅地・工業用地に変貌。 昭和30年、吉田町、立間村、喜佐方村、奥南村及び玉津村が合併、さらに高光村の一部(知永)を編入して新吉田町となる。		
地域組織	自治会数 18 地域組織 立間地区社協 いきいきサロン(高齢者2、子育て1)	民生委員数 6 (主任児童委員含む) 自主防災組織 17	
公共施設・生活施設	小学校 1 公園 5 金融機関 1 果樹園 8	保育園 1 郵便局 1 商店 1	公民館・集会所 18 駐在所 1 理容・美容 3
地域活動	地区社協 通学路花いっぱい運動、校区見守り隊の支援、サロン協力 など 公民館 春秋の集い、納涼盆踊り大会、地区敬老会、駅伝競走大会 など その他 芸能祭、なかよし広場、奉納相撲大会、亥の子 など		
文化・郷土芸能・人物	文化財 おねり 鹿の子 卯之刻相撲	普門寺跡 石城跡 吉田藩刑場跡	など
交通機関	最寄り駅は立間駅。宇和島バス、コミュニティバスが走る。 山間部は、コミュニティバスが走るが、路線の無い枝分かれした小集落は多い。 国道沿いは、宇和-宇和島間の交通の要所でもあり、交通量は多い。		
現状	少子高齢の地域ではあるが、独居率は低く、保護世帯は少ない。 地理的に枝分かれした集落が多く、少子の現在、一人で通学する児童が多い。 児童の安全確保のため、地域で見守る活動を行っている。		

玉津地区

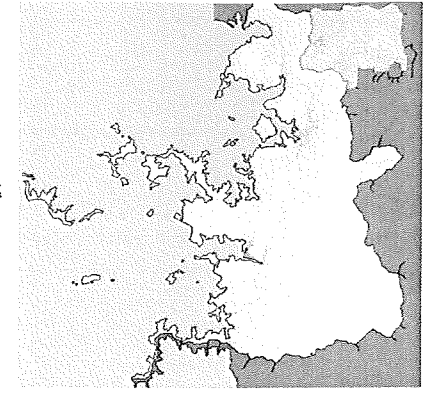
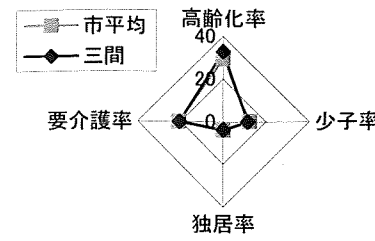
人口	1,802 人
世帯数	572 世帯
高齢化率	33.2 %
少子率	12.6 %
独居率	2.4 %
要介護率	22.6 %



玉津とは	宇和島市の最北端、西予市宇和町、明浜町に隣接する。 国道56号には多くのトンネルがあり、西予市に向う法花津峠は交通の要所。 地域面積のほとんどが果樹園として発展してきたみかんの栽培地帯。
歴史	明治23年、市制・町村制にともない、玉津村を形成。 昭和30年、吉田町、立間村、喜佐方村、奥南村及び玉津村が合併、さらに高光村の一部(知永)を編入して新吉田町となる。 平成18年には、県立果樹試験場「みかん研究所」が設置され、高品質果実の生産と特色ある産地づくりを進めている。
地域組織	自治会数 16 民生委員数 7 (主任児童委員含む) 地域組織 玉津地区社協 自主防災組織 1 いきいきサロン(高齢者9、子育て1)
公共施設・生活施設	小学校 1 保育園 1 公民館・集会所 14 公園 9 みかん研究所 郵便局 1 駐在所 1 金融機関 1 商店 1 理容・美容 2 果樹園 4 水産加工直売所
地域活動	地区社協 「隣組」活動により「地域力(近所の底力)の向上事業 (ふれあいいきいきサロン、独居高齢者訪問、防災学習会、広報誌「隣組」の発行など) 公民館 芸能祭、盆踊り、敬老会、わんぱく広場 など その他 秋祭り、夏祭り、亥の子、地藏クラブ
文化・郷土芸能・人物	文化財 法花津本城跡 薬師如来坐像 法花津峠からの絶景(1972年、足摺宇和海国立公園に指定)
交通機関	最寄駅は立間駅。宇和島バスが海岸線に沿って明浜、吉田を結ぶ。 路線バスは学生が多く利用しているため、学校が休みの時は便数が減る。
現状	高齢化率が高い地域でありながら、少子率も平均的、独居、保護率は非常に低い。 1世帯の家族数も多く、昔ながらの3世代家庭が多く残っている地区であろう。 福祉活動に感心高く、リーダーを中心に様々な活動に取り組んでいる。

三間地区

人口	6,592 人
世帯数	2,488 世帯
高齢化率	32.9 %
少子率	11.4 %
独居率	3.9 %
要介護率	20.5 %



三間とは	宇和島市最北端、東部に位置する。 農業地帯でありながら急峻な溪流で保水力が無いため、大小108の溜池がある。 四国霊場札所が2つ存在する。
歴史	昭和29年、三間村、成妙村、二名村が合併し、三間町となる。 平成17年、宇和島市と合併。
地域組織	自治会数 30 民生委員数 26 (主任児童委員含む) 地域組織 三間地区社協 自主防災組織 24 いきいきサロン(高齢者8、子育て2、障害者1) 商工会青年部 毛利家を守る会 子ども球技実行委員会 コスモス会 など
公共施設・生活施設	小学校 3 中学校 1 高校 1 保育所 3 幼稚園 1 市役所三間支所 子育て支援センター・みま ふれあい交流館 老人憩いの家 三間保健福祉センター 三間コスモスホール 道の駅・コスモス館 病院 4 薬局 1 介護事業所 6 郵便局 2 駐在所 1 金融機関 4 理容・美容 18 商店 12 障害者作業所 1 宇和島カントリー ちいほ窯
地域活動	地区社協 広報紙の発行、サロン・各種団体助成 公民館 納涼祭、文化の夕べ、コスモス祭り その他 子ども相撲大会、音地地四国まつり、中山池イルミネーション など
文化・郷土芸能・人物	人物 井関邦三郎 井関農機設立者 畦地梅太郎 版画家 文化財 花踊り 仏木寺・龍光寺(四国霊場札所) 旧毛利家庄屋住宅 など
交通機関	狭い地区内にJR駅が4つと多いが便は少なく、利用者は主に市内に通う学生。 宇和島バスが主な地区を走るが、民家からバス停まで徒歩20分以上かかる。 宇和島バスの、川之内線は、平成17年に廃止。同地区をコミュニティバスが補完。
現状	近年まで独立した行政があったため公共機関が充実し、生活の不便さはさほど無い。 合併後、事務局移転、補助金削減等により各種団体の活動が停滞しつつある。 近年中に三間支所は大幅な人員削減があると見られる。三間高廃止問題など昼間人口の激減は避けられなく、町の衰退が心配される。